

ワーグナーの聖地、バイロイト音楽祭に長年出演しているヴァイオリニストたちによるハーモニーの醍醐味

Bayreuth-Festival Violinquartett

バイロイト祝祭
ヴァイオリン・クアルテット

ベルンハルト・ハルトーク (ベルリン・ドイツ響第1コンサートマスター)
Bernhard Hartog

ミハエル・フレンツェル (ドレスデン・シュターツカペレ第2コンサートマスター)
Michael Frenzel

ウルフ・クラウゼニッツァー (ニュルンベルク・アウクスブルク音楽大学教授)
Ulf Klausenitzer

真峰紀一郎 (ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団)
Kiichiro Mamine

2009年10月14日(水)開演19:00
ザ・フェニックスホール (開場18:30)

Wednesday, October 14, 2009 at 19:00 (open18:30) The Phoenix Hall, Osaka



全指定席 ¥6,000

主催: KAJIMOTO

協賛: ザ・フェニックスホール / ニッセイ同和損保 / 才能教育研究会

後援: 日本ワーグナー協会

ヴィヴァルディ
調和の靈感より 4つのヴァイオリンのための協奏曲
ロ短調 作品3-10

モーツァルト
“魔笛”より 編曲(1998)

キルヒナー
4つのヴァイオリンのためのエレジー
“エッコ ヴェネツィアーノ”(2009 委嘱作品)

ダンクラ
4つのヴァイオリンのためのクアルテット

ハイドン
ヴァイオリン・デュオ ハ長調

ラッヒナー
2つのヴァイオリンのためのクアルテット 作品107

クブコヴィッチ
4つのヴァイオリンのための
“ローエングリユン・ヴァリエーション”(2008 委嘱作品)

バシエーヴィツ
4つのヴァイオリンのためのクアルテット

チケットのお申込み・お問合せ

カジモト・イープラス 0570-06-9960 <http://kajimotoeplus.com/>

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。 ホームページからもお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:331-534) e+ (イープラス) <http://eplus.jp/>

ローソンチケット 0570-000-407

ザ・フェニックスホールチケットセンター (06) 6363-7999 (土日祝を除く平日の10:00~17:00)

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

※未就学児の入場はご遠慮ください。



便利なケータイサイトも
ぜひご利用ください。
iモード/EZweb/Yahoo!ケータイ 対応
チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス

一般発売: 7/22(水) 10:00~



〒530-0047 大阪府北区西天満4-15-10
TEL.06-6363-0311
(梅田新道・東南角 ニッセイ同和損保フェニックスタワー内)

これぞ理想のワーグナー・サウンドのエッセンス! バイロイト祝祭ヴァイオリン・クアルテット日本初登場!

世界中のワグネリアンが聖地と仰ぎ見るバイロイト祝祭劇場。緑の丘の上に建つレンガ造りの外観は、ワーグナー作品の壮大なイメージとは裏腹に、慎ましやかな佇まいすら感じさせる。「神秘の奈落」と呼ばれる同劇場の特殊な構造のピットに入るバイロイト祝祭管弦楽団は、全世界から集められた腕利き音楽家によって編成される。楽員の拘束は6月末から10週間。夏休み返上で音楽祭に参加するわけだが、全員がまるでアマチュアのような前向きの姿勢で、練習・本番に取り組むのがこのオケの特徴だ。その原動力は何といってもワーグナーの音楽に対する楽員ひとりひとりの愛情にほかならない。本番終了後もパートごとに集まってビール片手の反省会が未明まで続くことも珍しくはない。

そんな祝祭管の第1ヴァイオリン奏者によって2005年に結成されたのが、バイロイト祝祭ヴァイオリン・クアルテットだ。メンバーはコンサートマスターのベルンハルト・ハルトーク(ベルリン・ドイツ響コンマス)、真峰紀一郎ら4人。いずれも音楽祭参加歴10年を超える名手ばかりだが、彼らの熱意も並大抵のものではない。筆者は第1ヴァイオリンの反省会に何度か同席させてもらったが、その日の上演を振り返って熱心に語り合う彼らの姿勢はルーティンという言葉とは対極にあるものだった。そうした日々を十数年間も繰り返してきた4人が紡ぎ出す音楽は、温かくそして深い滋味に満ち溢れており、日本の聴衆の心にもしみじみとした感動をもたらしてくれるに違いない。

ジャーナリスト、バイロイト友の会会員 宮嶋 極



ウルフ・クラウゼニッツァー
(第3ヴァイオリン)

ミヒャエル・フレンツェル
(第2ヴァイオリン)

ベルンハルト・ハルトーク
(第1ヴァイオリン)

真峰紀一郎
(第4ヴァイオリン)

ベルンハルト・ハルトーク (第1ヴァイオリン)

1949年ビーレフェルト生まれ。ヴェルナー・ホイリングとアントン・ゲルトラーに学ぶ。ハノーファー音楽大学を卒業後、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に第1ヴァイオリン奏者として入団。その後ハノーファー・オペラ管弦楽団の第1コンサートマスターを経て、1980年豊田耕児氏の後任としてベルリン・ドイツ交響楽団のコンサートマスターとなり今日に至る。また、1987年からバイロイト祝祭管弦楽団のコンサートマスターを務める。ソリストとしては、指揮者のウラディーミール・アシュケナージ、ケント・ナガノ、リカルド・シャイー、インゴ・メッツマッハーらと共演。室内楽では、ハルトーク弦楽四重奏団のプリマウスとしてハイドン、シューベルトの弦楽四重奏曲全曲演奏を行った。また、ベルリン・フィルハーモニー弦楽六重奏団のメンバーでもある。長年にわたり、ベルリン芸術大学で教鞭を執っている。

ウルフ・クラウゼニッツァー (第3ヴァイオリン)

1944年バード・ナオハイム生まれ。フランクフルト、ケルン、バーゼルの音楽大学に在籍。その間、ヘンリック・シェリング、レオニード・コーガンのマスターコースに参加。さらにロンドンに留学し、アマデウス弦楽四重奏団のノーバート・ブレニンに室内楽を学ぶ。マンハイム、ザールブリュッケン、ニュルンベルクの各オーケストラのコンサートマスターを歴任後、1980年にニュルンベルク音楽大学の教授に就任し今日に至る。1979年にはバイエルン室内オーケストラを創立、2007年に辞任するまで総責任者兼指揮者として尽力し、国際的にも高い評価を受けた。1980年からバイロイト祝祭管弦楽団のメンバーとなり、2004年以降、同オーケストラの代表委員を務める。室内楽では、ドルンブッシュ弦楽四重奏団のメンバーとしてジュネーヴ国際コンクールで受賞。2002年以来、ヨーロッパ弦楽器指導者協会のドイツ副会長を務めている。

ミヒャエル・フレンツェル (第2ヴァイオリン)

1950年ゲルリッツ生まれ。5歳から母親にヴァイオリンとピアノのレッスンを受ける。その後ドレスデンの音楽大学でラインハルト・ウルブリヒに師事。旧東ドイツ国内やポーランドのコンクールで多数入賞。1973年卒業と同時にドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。1975年シュターツカペレ・ドレスデンに第1ヴァイオリンとして移籍、1978年から第2コンサートマスターになり、今日に至る。1996年からバイロイト祝祭管弦楽団にも加わる。室内楽では、ヴィルトゥオーゾ・ザクソニア、ドレスデン室内ソリスト、ドレスデン・ソリストのメンバーとして活躍している。

真峰紀一郎 (第4ヴァイオリン)

1941年東京生まれ。疎開先の松本で鈴木鎮一氏に師事(才能教育第1期生)。松本深志高校卒業。1964年国立音楽大学卒業と同時に、新設の読売日本交響楽団に入団。1969年旧西ベルリンに留学、豊田耕児氏の下で研鑽を続ける傍ら、ベルリン芸術大学で室内楽を学ぶ。1970年ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団に入団し、2006年退団。その間、ベルリン・フィルのエキストラとして、カラヤン指揮の数多くのコンサート、演奏旅行に参加。1973年からバイロイト祝祭管弦楽のメンバーとなる。室内楽では、ベルリン・フィル弦楽ソリストのメンバーとして世界各国の演奏旅行、録音、放送などに参加。

1982年から旧西ベルリンのシンボルであるヴィルヘルム皇帝記念教会で隔週にバッハのカンタータやミサ曲を演奏するベルリン・バッハ合唱団の理事、バッハ・コレギウムの責任者を引き継いでいる。

●やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしませんのであらかじめご了承ください。
●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。 ●団体料金の設定のある公演もございます。詳しくはお問合せください。

KAJIMOTO 〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル TEL: (03) 3574-0550 <http://www.kajimotomusic.com/>

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%
このチラシは再生紙を使用しています
KAJIMOTOはチーム・マイナス6%に参加しています。